

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆7～9月の実質GDP、年率3.0%減 2期ぶりマイナス

・内閣府が15日発表した2021年7～9月期の国内総生産(GDP)速報値は物価変動の影響を除いた実質の季節調整値で前期比0.8%減、年率換算で3.0%減だった。マイナス成長は2四半期ぶり。新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言などで個人消費が落ち込み、自動車の減産で輸出も伸び悩んだ。

◆日銀総裁、対面型サービス業「資金繰りなお厳しい」

・日銀の黒田東彦総裁は15日午後の記者会見で、2022年3月末に期限を迎える新型コロナウイルス対応の資金繰り支援策について、飲食や宿泊に代表される対面型サービス業では「資金繰りの厳しい状況が続いている」との認識を示した。企業全体の金融環境は「改善傾向を維持している」とし、「(中小企業の資金需要を)よく見極めて対応を決めたい」と述べた。

◆ワクチン追加接種「2回目から6カ月後」も容認 厚労省

・新型コロナウイルスワクチンの3回目の追加接種を巡り、厚生労働省は2回目の接種から6カ月以上経過した人も対象として認める方針。これまで2回目から8カ月後をめどに自治体に準備を求めていたが、海外ではワクチンの効果が半年後には低下するとの報告も出ていた。地域の感染状況などを踏まえて、自治体の判断で前倒しで実施することも容認する。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆民間等の建築工事43.5%増—建設工事受注動態統計9月分

・国土交通省は、2021年9月分の建設工事受注動態統計調査報告を公表。9月の受注高は10兆4201億円で、前年同月比2.2%増加。うち元請受注高は7兆3358億円で同7.3%増加し、下請受注高は3兆843億円で同8.1%減少。民間等からの受注工事のうち建築工事・建築設備工事は1兆3733億円で前年同月比43.5%増となった。

◆パナソニック、アブラヤシ廃材活用の木質ボード

・パナソニックは15日、アブラヤシ(パームヤシ)の廃材を木質ボードに加工する技術を開発したと発表した。アブラヤシからボードのもととなるチップを作る技術は世界初で、温暖化ガスの抑制効果もあるとしている。2023年度中の事業化を目指す。パナソニックは独自技術で不純物などを取り除き、チップ化に成功。

◆中国粗鋼生産23%減 10月、3年8カ月ぶり低水準

・中国の10月の粗鋼生産量は前年同月比23.3%減の7158万トンと4カ月連続減り、2018年2月以来、3年8カ月ぶりの低水準となった。政府の指示を受けて多くの鉄鋼メーカーが減産を進め、設備修繕として操業を休止するメーカーが相次ぎ、全国的な電力供給不足で電炉の操業も低下。環境規制による製鉄所の操業制限が11月半ば以降強まり、減産傾向が続く見通し。

《 注目商品 》

■リンナイ、標準スライドオープンタイプの食器洗い乾燥機 RKW-405シリーズ

・シンプルな機能を備えた標準スライドオープンタイプの食器洗い乾燥機RKW-405シリーズを12月15日に発売。食器カゴの見直しによりまな板をはじめ食器が収納しやすく。面材調整機構を新たに搭載し操作性が向上。RKW-405Cは、約20分で洗浄とすすぎが完了する「洗浄のみコース」を搭載。



■LIXIL、電動オープナーシステム「DOAC」に新機能

・自宅の玄関ドアを魔法のように簡単に“自動ドア”へ変えられる電動オープナーシステム「DOAC」にスマートフォンやApple Watchでのタップ操作、音声操作にも対応する新機能を追加し、発売。鍵の施錠・解錠から、ドアの自動開閉まで可能になる玄関ドアの“ハンズフリー操作”実現。



■ソーラーフロンティア、日本の住宅屋根にフィットする太陽電池「SFBシリーズ」

・日本の屋根にフィットするコンパクトなサイズ感で、高い変換効率と実発電量を実現する新シリーズ。11月発売の新製品「SFB250-88A」は、公称最大出力250W、変換効率19.3%。従来機種と比較し、1棟あたりの年間発電量は約22%向上。出力保証期間は20年で、性能の持続性も高い。

